

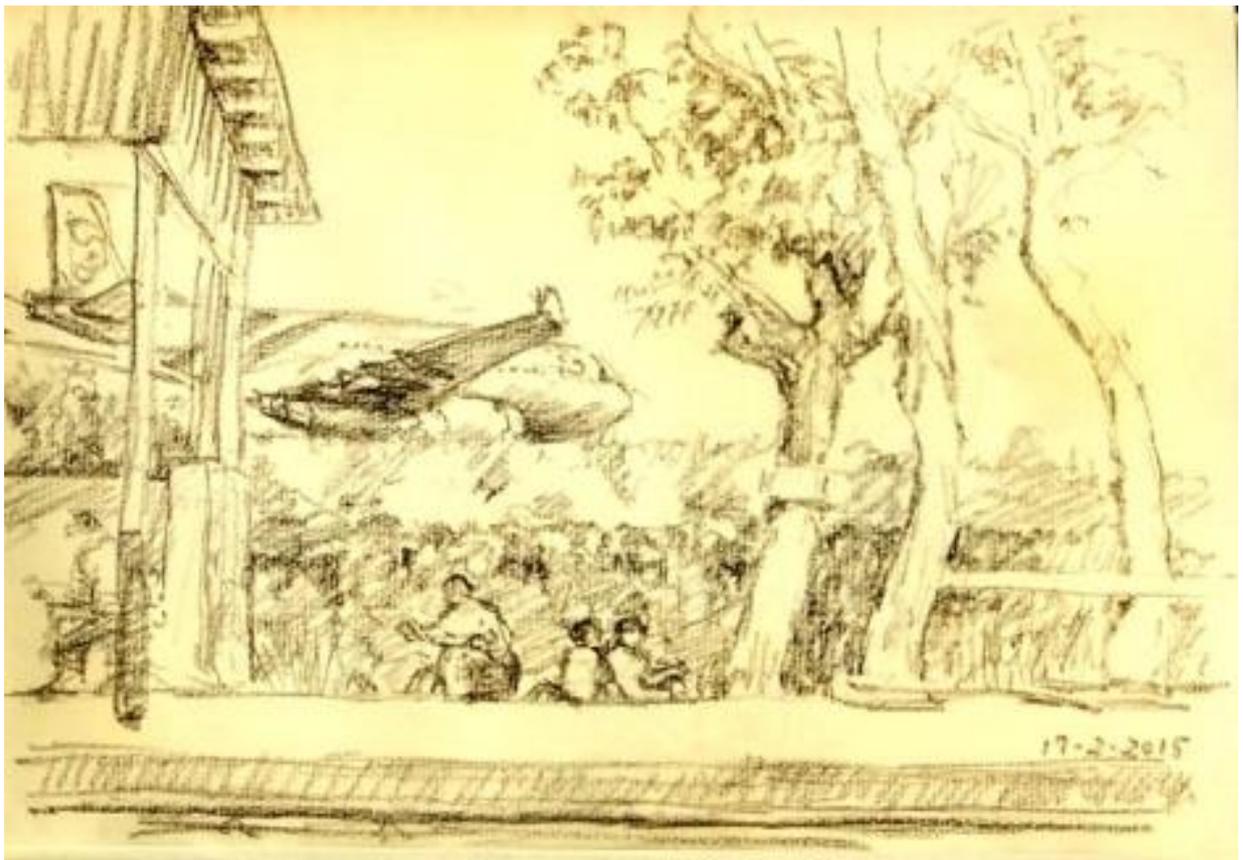
## ヤンゴン素描 No.19 ウェイバーギー 隠された防衛線

山形洋一

### 空軍跡地のさびれた駅の近くにあるのは、「エイズ病院」と、多民族的共同墓地

ミンガラドン国際飛行場の北東の角にあるこのひっそりとした駅は、かつて Burma Air Force と呼ばれていた。滑走路が拡張される以前のことである。

現在、駅の西には滑走路があり、法（のり）面の手前に道が一本通っている。東側は空苺菜の田圃で、乗降客は少なく、駅前で待つオートバイ・タクシーの数も少ない、さびれた駅だ。



図：ウェイバーギー駅ホームから西にある滑走路へ向かって方向転換中の旅客機

1988年、市民の反対を押しきり政権を取った国家法秩序回復評議会は、建設で人気を挽回する作戦に出た。西部のラインタヤ、北部のシュエピターのニュータウンができたが、

北東のウェイバーギーは道路が整備されただけで、建物は少なく、レンガ用の粘土を掘った跡の池ばかりが目立つ。

「ウェイバーギー」の意味について聞いてみたが、パーリ語の仏教用語だろうというだけで、正確なところは分らない。ウェイバーギー道路の南には **Tuthitar** (トゥティター) 道路があるが、漢訳の「兜卒 (とそつ) 天」、すなわち釈尊が人間界に生を受ける前におられたとされる天上世界で、宮沢賢治の詩「永訣の朝」にも出てくる。近くには「極楽が原」「浄土台」「正法道路」などもあり、まるで大峰山か羽黒山の峰をめぐるようで、ちょっと愉快になる。

だがヤンゴンの住民が「ウェイバーギー」と聞いてまず思い出すのは、「エイズ病院」だという。正しくは「感染症病院」で、水田地帯に唐突に建っている。注意をしてみると近くには警察署と消防署がひっそりと、しかしなぜか 2 か所ずつ置かれていて、有事への備えが見え隠れする。生物兵器によって攻撃されることを、本気で想定していたのではなかろうか。現に 2014 年 8 月にエボラ熱の疑いのある患者が報告された時、さっそくここに隔離収容された。

隔離病院がおかれるのは、このあたりが都市外縁にあたるからだだろう。かつてライ病院のあったハンターワディーや、精神病院の置かれたタダガレーなどが、まさにそうだった。

生きた人間を隔離する距離感は、死体を遠ざける距離感に近い。ヤンゴンの町がまだ小さかったころには、中央駅のすぐ北にあった埋葬地も、北へ北へと移動し、ついにウェイバーギーの東に達している。湿地を拓いた土地には、ビルマ人仏教徒、タミル系ヒンドゥー、インド・雲南系ムスリム、福建・広東系華人などの墓地があり、それぞれ特異な形の墓碑や墓石が整然と並んでいる。この国の民族的多様性を知るのに、きわめて便利な場所である。

墓地の近くには長距離バスが発着するアウン・ミンガラーのバス・ターミナルがあるので、帰りは不便なウェイバーギー駅まで戻らなくて済む。34 番系統のバスで市の南端のスーレまで乗るか、途中のシュエダゴンあたりで降りるもよし。もちろんタクシーで帰る手もあるが、その前に、せっかく来たのだからこの巨大なバス・ターミナルをゆっくり見てみることをお勧めしたい。さまざまな食べ物と土産物、地方へ流れる生活物資。首都と地方を結ぶ人の流れと渦に比べて、ウェイバーギーは霞んで見えるだろう。

(了)